

# と ば 鳥羽市



- ① 熨斗あわび
- ② 丸興山庫蔵寺
- ③ 九鬼嘉隆
- ④ 神島
- ⑤ 真珠王 御木本幸吉

## 文化財

鳥羽市

## の し 熨斗あわび

鳥羽のパールロード沿線に、国崎という町があります。倭姫命がこの国崎の地を訪れ、この国崎の海女がとったアワビのおいしさに感動し、伊勢神宮に奉納するようになったという伝承があります。

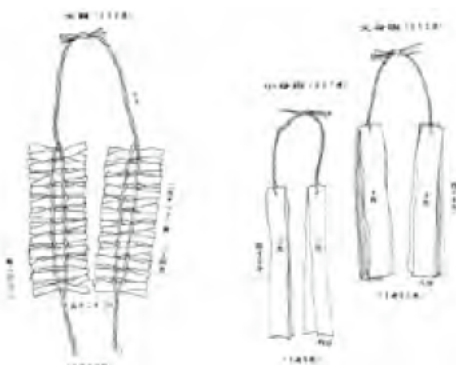
熨斗あわびとは、アワビをリンゴの皮をむくように薄くむき、それを干して乾燥させ、わらで結んだ物です。国崎の熨斗あわびづくりは、2004(平成16)年、県の無形民俗文化財に指定されています。

国崎にはあわび調製所があり、大老(70歳代)とよばれる人たちが、神宮の式典に必要な熨斗あわびの製作に携わります。

国崎では、毎年7月に「御潜神事」として大きなイベント行事が行われます。伊勢神宮への献上の伝統を受け継いできた国崎の祖先と、豊富な魚介類を育ててきた国崎の海への感謝をする祭りとして始められました。祭り当日は普段見ることのできない熨斗あわびづくりの実演も見られます。



室内に乾されたアワビ  
(野村史隆さん提供)



熨斗あわび (野村史隆さん提供)

■ あなたの住んでいる地域に現在も伝わる伝統的な儀式について調べてみましょう。

文化財  
鳥羽市

が ん こ う ざ ん こ そ う じ  
丸興山庫蔵寺

近鉄加茂駅から徒歩90分。人里離れた山深いところに丸興山庫蔵寺があります。金剛証寺の奥の院として建立されたといわれ、地元の人々からは「まるやまさん」とよばれ、親しまれています。お寺の本堂と鎮守堂は、国の重要文化財に指定されています。本堂の天井絵や仏像などは、室町時代の作品と伝えられ、歴史の重みが伝わってきます。

周囲は深い森に囲まれ、荘厳な雰囲気を感じ出していますが、中でも、本堂前の崖に生育しているコツブガヤは非常に貴重です。コツブガヤは、普通のカヤと違い、種子が15mm以下と小粒である上に、現在日本では、宮城県白石市小原の1本と、ここ丸興山庫蔵寺本堂前の1本の他に数本しか確認されていません。丸興山庫蔵寺のコツブガヤは、樹齢400年といわれ、種子が貴重だという理由で、国の天然記念物に指定されています。



丸興山庫蔵寺（鳥羽市観光課提供）

また、コツブガヤを含む原生林はイスノキが群生していて、志摩半島の環境を今に残すものとして、価値の高いものだともいわれています。

■ あなたの住んでいる地域にも、歴史的価値のある史跡がないか調べてみましょう。

人物  
鳥羽市

く き よ し た か  
九鬼嘉隆

鳥羽市にある離島のひとつに、答志島があります。桃取、和具、答志という3つの町を持つ、鳥羽市の離島では一番大きな島です。この島に、九鬼嘉隆の首塚と胴塚があります。

九鬼嘉隆は、現在の鳥羽市・志摩市(昔の志摩国)を地盤に戦国時代に活躍しました。織田信長に仕え、毛利水軍と戦いました。一度は毛利水軍に敗れましたが、信長の命令で「燃えない船」を作ることになりました。それが、船に鉄を貼った「鉄甲船」とよばれるものです。この船の威力は凄まじく、最終的に毛利水軍を破り、信長と争っていた石山本願寺の攻略に大きな役割を果たしたといわれています。

信長の死後は豊臣秀吉に仕え、水軍の大將格になり、熊野灘・伊勢湾一帯の制海権にぎりましました。しかし、関ヶ原の戦いでは石田三成側(西軍)につき、実の息子である九鬼守隆(東軍)とは東西に分かれて戦いました。戦いの結果、西軍は敗れ、嘉隆は答志島で自害しました。そのため嘉隆の首塚と胴塚が答志島に残されています。また、鳥羽には嘉隆が築いた鳥羽城跡があり、当時の石垣が残っています。【→P69】



上：九鬼嘉隆の首塚  
下：九鬼嘉隆の胴塚  
(鳥羽市提供)

■ 関ヶ原の戦いで、なぜ九鬼嘉隆は、親子別々に分かれて戦ったのか考えてみましょう。

## 歴史

## 鳥羽市

かみ しま  
神 島

神島は、鳥羽港の北東約14km、愛知県伊良湖岬の西方約3.5kmの伊勢湾口に位置し、島内は標高171mの灯明山を中心に島全体が山地となっています。佐田浜

港から1日4～5便の定期船が出ています。それに乗ると、約40分かかります。また、三島由紀夫の小説『潮騒』の舞台としても有名です。その他にも、神島には有名なものがいくつかあります。

その一つに、元旦の未明に行われる「ゲーター祭り」があります。グミの枝で太陽を形取った直径2m程のアワとよばれる白い輪を、島中の男たちが剣といわれる青竹で突き上げます。邪悪を払い、無事平穏な新しい日の出を迎える願いを込めた祭りといわれています。県の無形民俗文化財に指定されています。

また、島の南側には、『潮騒』にも出てくる「監的哨」があります。今はコンクリートの建物しかありませんが、伊良湖岬の向こうから撃ち出された高射砲の弾がどこに着弾するかを確認するために、1929(昭和4)年に建設された建物です。荒れ果てた建物に往時への思いをはせると、目の前に広がるきれいな景色が平和な世の中のすばらしさを実感させてくれます。



ゲーター祭り(鳥羽市観光課提供)

- 三重県の無形民俗文化財にはどんなものがあるのか調べてみましょう。

## 人物

## 鳥羽市

しんじゅおう みきもとこうきち  
真珠王 御木本幸吉

御木本幸吉は、相島(現在のミキモト真珠島)で、1893(明治26)年に世界で初めて半円真珠養殖に成功しました。

鳥羽のうどん屋の長男として誕生した幸吉は、さまざまな商売を経験する中で、志摩の名産だった真珠の魅力に着目しました。初めは真珠貝の増殖、やがて真珠そのものの養殖へと試行錯誤や失敗をくり返しながら、「自分の作った真珠で世界中の女性を美しく飾りたい」という夢の実現に邁進していきました。養殖真珠を作るだけでなく、養殖真珠のすばらしさを世界に認めさせることにもずいぶん苦労しました。ヨーロッパでは、養殖真珠の裁判が起こされ、いろいろ議論されました。その結果、養殖真珠が天然真珠と変わらないことが実証され、世界中で本物だと認められることになりました。

また、幸吉は故郷である伊勢志摩に惜しみない愛情を注いでいます。ことあるごとに、幸吉は賓客を志摩の自宅や真珠島に招き、真珠の魅力とともに伊勢志摩の美しい景観を広く紹介しました。伊勢志摩国立公園は、戦後初めての国立公園としてその名を残すことになっています。【→P87】

御木本幸吉  
(ミキモト真珠島提供)

- 御木本幸吉が、明治天皇に語った、「世界中の女性の首を真珠で飾ってご覧に入れます。」という言葉は有名です。他にどんな言葉を残しているのでしょうか。